

【概況】<世界的な景気低迷の懸念~ガソリン及び中間留分の在庫増>

●2日、米労働省が朝方発表した11月の米雇用統計は市場予想を上回り、労働市場の力強さが改めて示されました。これを受け長期金利が上昇。対主要通貨でドル高が進み、ドル建てで取引される原油の割高感が意識され相場は79.98ドルへ反落しました。また、欧州連合(EU)加盟国はこの日、対ロシア制裁として検討してきた同国産原油の取引価格の上限を、1バレル=60ドルにすることで合意しました。EUはロシア産原油の禁輸を5日付で発動する構えだが、ロシア通信によると、ロシア大手石油会社の2人の関係筋は、制裁を受け同国の産油量が来年初めには日量50万~100万バレル程度落ち込むとの見通しを示しました。

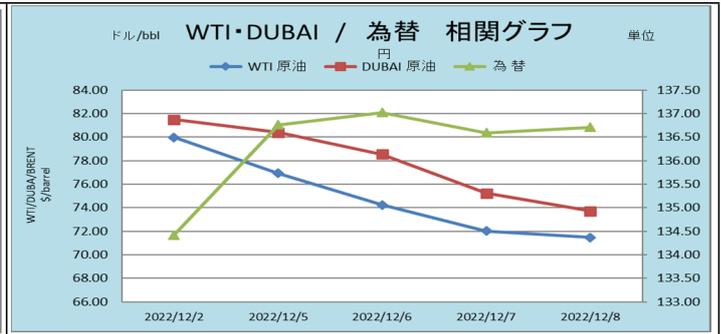
●5日、前週末に発表された11月の雇用統計に続き、この日午前に米サプライ管理協会(ISM)が発表したサービス業購買担当者景況指数(PMI)も市場予想を上回り、これを受け米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げ局面が長期化するとの見方から、対主要通貨でドルが上昇。ドル建てで取引される商品に割高感が生じ相場は76.93ドルへ続落しました。

●6日、S&Pグローバルが5日発表した11月の中国サービス部門購買担当者景況指数(PMI)は46.7と半年ぶりの低水準となりました。ユーロ圏でも、エネルギーの高騰や金利上昇などを背景に、経済指標の低迷が続いており、これらを背景に世界的な景気先行きの懸念が強まり、原油需要が減退するとの見方となり相場は74.25ドルへ続落しました。

●7日、米エネルギー情報局がこの日午前に発表した統計では、原油在庫が前週比520万バレル減となる一方、ガソリン在庫は前週比530万バレル増、ディステレート(留出油)在庫は620万バレル増となり、いずれも市場予想を大幅に上回る積み増し幅となりました。前日に米石油協会が発表した週間在庫統計でも、ガソリン、ディステレートがともに増加しており、石油製品の需給の緩みが意識され、売りが加速し相場は72.01ドルへ続落しました。

●8日、世界的なリセッション(景気後退)懸念が強まる中、エネルギー需要の先行きに警戒感が強く、その後も軟調に推移しました。前日に発表された週間在庫統計で石油製品の大幅な在庫積み増しが示されたことも相場の重しとなり71.46ドルへ続落しました。

12月9日 | 16:00現在 | WTI原油 | 71.96ドル | 為替 1ドル | 137.95円



	次回元売変動予測	
	12/15~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.7
灯油	→	-0.7
軽油	→	-0.7
A重油	→	-0.7
LSA	→	-0.7

※原油コスト「-6.0円」
 ※激変緩和補助金「-13.4円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<月間玉を持つ業者が、14日までに枠消化を狙い販売強化>

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「-1.0円」、補助金は、「-18.8円」、都合「-0.2円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの5日時点の小売価格平均は168.1円となっております。

◀12月10日以降▶ 次回の元売り改定は、原油コストは、「-6.0円」、激変緩和補助金は「-13.4円」の見込みで、都合「-0.7円」の値下げ改定の予測となっております。今週は、月間平均玉を持つ業者が、販売攻勢をかけています。原油価格の大幅値下がりで次週の補助金が大幅に減額される見込みとなったため14日までにほぼ売り切らないと15日以降は、競争力を失ってしまうためです。ガソリンについては、中京、関西地区は、輸入玉の競争力が勝るため枠を消化するためには、思い切った価格対応をしなければオーダーを取れませんが、各業者とも他社見積りの下をぐりあい時間毎に市況が下落している状況です。灯油、A重油の市況は、堅調に推移していますが、軽油は、早めの枠消化を狙って月間玉を持つ業者が販売攻勢をかけています。14日までは、月間玉を持つ業者の売り腰が強くなりますが、15日以降は、週間玉が再び有利になる展開になると思われます。

【次世代エネルギー】<原子力機構が高温ガス炉活用で推進室新設、水素製造・熱利用を加速>

日本原子力研究開発機構は、高温ガス炉や水素製造・熱利用技術の取り組みの強化に向けた「高温ガス炉プロジェクト推進室」を設置されました。高温工学試験研究炉(HTR)を活用した水素製造の技術の確立だけでなく、海外との事業連携・参加が増えることを見込まれることから同推進室の設置を決定され、12人体制で渉外・広報業務などを担当されます。カーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)の実現への動きが加速すると見られます。

HTRと接続した水素製造施設を設置して、原子力を使ったカーボンフリーな水素の製造方法の構築を目指しており、特に両施設を安全に接続する設計・評価技術などが重要であり、2030年までに完成することを目指して開発を進めています。日本の高温ガス炉の研究は世界からも注目されており、同接続技術が確立できれば世界初との事です。

日本の持つ高温ガス炉の技術を求める声は多い。原子力機構はポーランドが導入を検討している高温ガス炉の基本設計に協力し、設計技術や情報を提供します。また英国の新型炉開発の予備調査の実施に採択されるなど、国際協力は今後も増え続けそうとの事です。

【出典】 ① <https://newswitch.jp/p/34482>